

神奈川県立秦野支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

|      |  |
|------|--|
| 会議名称 | 令和8年度 秦野支援学校 第1回 学校運営協議会   |
| 開催日時 | 令和8年5月27日 13時30分～15時40分  |
| 開催場所 | 秦野支援学校 落合校舎2階会議室   |
| 出席者  | 運営協議会委員(本校校長含む) 7名 ※欠席者3名<br>事務局教職員 14名  |
| 会議資料 | <事前配付>秦野支援学校ランドデザイン、令和7年度学校評価報告書(実施結果)、令和8年度学校評価報告書(目標設定)、令和8年度不祥事防止ゼロプログラム<br><当日配付>神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱、学校運営協議会 部会の位置づけ、令和8年度 学校目標の設定について、各グループ、部門・課程の取組の重点、秦野支援学校 児童生徒への関わりのスタンダード   |
| 議事録  | <p>1 学校長挨拶</p> <p>2 学校運営協議会委員、委員の委嘱並びに自己紹介、会長選出、会長挨拶</p> <p>3 事務局より 自己紹介、学校運営協議会、部会の位置づけについて</p> <p>4 協議</p> <p>① 令和8年度学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切なことは、学校が安全な場所であること。また、一人ひとりの児童生徒の成長に必要なことを考えていくこと。</li> <li>・児童生徒と地域との現在のつながりを大切にしながら今後の広がりを模索していく。ランドデザインの「自分の可能性を切り開く」ためには地域の力も必要。</li> </ul> <p>② 令和8年度学校評価(目標設定)、不祥事防止ゼロプログラム、各グループ・部門課程の取組の重点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事ゼロプログラムに「同僚性」、「気にかかる状況」という言葉がある。とても重要。</li> <li>・不祥事防止対策について、知識を持っていることが大切。ルールを「知らなかった」ということがないようにする。経験の深さ、勤務形態等にかかわらず、ルールを知り、守れるようにすることが重要。</li> <li>・統合型校務支援システムは、保護者・児童生徒との連絡には「すぐーる」、教員は「スクールエンジン」を活用している。出欠席の確認、出席簿・指導要録の作成など活用が広がっている。児童生徒の転出入に係るの業務や出席簿作成業務等の負担が軽減されている。</li> <li>・AI活用は、地域のアンケートの整理に使用したが、意図とは違ったまともになった。正誤の評価は必要。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→AIへの最初のプロンプトと最後は人間。最後のところで確認を行い、判断は人間がしなければいけない。</li> <li>→学校でも活用を検討している。個人情報、著作権、正確性にはまだ課題がある。規則もできていくと思われる。</li> <li>→子どもたちは将来AIを使っていく。業務だけではなく、指導について考える必要がある。</li> </ul> </li> <li>・ハンデがある児童生徒に対して自己愛や達成感を持たせる工夫はどのようにしているか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→日常生活全般において、一人ひとりを認める姿勢をもち、一つひとつの動作に対して肯定的なフィードバックを行い、教員が「認めている」という発信をする。児童生徒自身が認められることによって、「自分が変わった」ことに気付くことが大切である。</li> </ul> </li> <li>・「児童生徒への関わりのスタンダードはよく出来ている。よく読み込んで深く理解し、努力することに努めてほしい。</li> <li>・学校目標の標記にある「チームとして」という視点が素晴らしい。「自己選択」という視点も重要である。</li> <li>・地域をキーワードに取り組むときには社会福祉協議会とコラボを考えていけるとよい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→学校としても、地域と関わるアイデアをいただけるとありがたい。</li> <li>→学校だけで無理せず、何かする中で「ここを任せたい」ということがあれば協力したい。</li> </ul> </li> <li>・保護者としていろいろな視点で学校の取組を知ることができた。安心して通わせることができると感じた。</li> <li>・進路指導は小学校でも「キャリア教育」に取り組んでいる。大事なことは「夢を持たせる」ことだと考えている。</li> <li>・末広小学校で秦野支援学校の教員が授業をするのも良い取組ではないかと思う。</li> <li>・小学校の授業に参加して、手本を見ることで支援学校の取組だけではできないことができるようになった場面もあった。</li> </ul> <p>5 事務連絡 次回 11月2日(月)</p> |